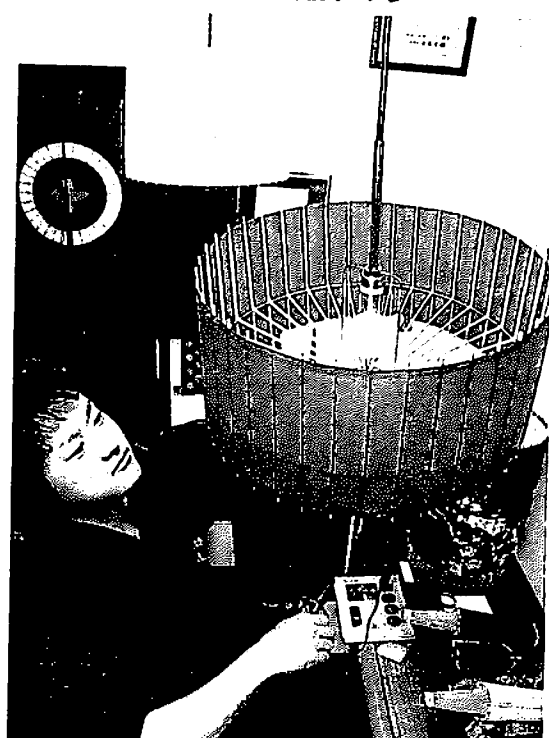


経済

京都

和傘照明



和傘の竹骨の美しさを生かした「古都里」

心和む幾何学模様

和紙から透けて見える白熱灯の光に、心が和む。和傘特有の幾何学模様を描く竹の骨組みは、古きよりの、まず、モダンな印象を感じさせる。

伝統息づく細工、デザイン

和傘の骨組みや、和紙の透過、折られたため。光の美しさを生かした新たな商品。簡単に竹を等間隔に並べることを生み出せないか。その答えが、「和傘照明」だった。

「こんな面白いものが見向きされなくなっていくのは悲しい」。和傘作りに挑みたい。周囲の反対を押し切って、2003年に日吉屋を継いだ。



木型を使って和傘照明を作る西畑さん

技あり京都

日吉屋

(上京区)

創業は江戸時代後期。2代目から、宝鏡寺の門前に店を構え

芥川賞受賞川上未映子特別講演会

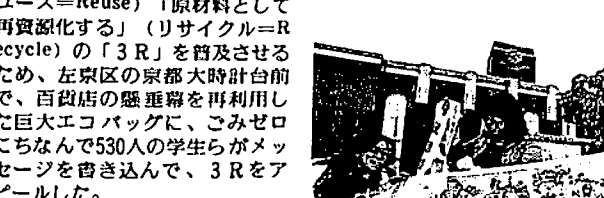
言葉の恥じらい、言葉のちから
8月10日(日)午後1時30分～3時、太閤閣ガーデンホール(大阪府都島区鶴島9)

「乳と卵」で今年の芥川賞を受賞した作家の川上未映子さん。写真が追求している「言葉」の世界。創作や読書、人間関係といった現場から「言葉」をめぐる魅力について語ります。

定員300人。一般1800円、会員1500円。申し込みは、大阪よみうり文化センター(電話06-6361-3325)へ。ホームページ(http://www.obc.co.jp/)からも受け付け中。後援=読売新聞大阪本社

ごみ減量訴えエコバッグに 京大生ら

「ごみを減らす」(リデュース=Reduce)「再利用する」(リユース=Reuse)「原材料として再資源化する」(リサイクル=Recycle)の「3R」を普及させるため、左京区の京都大時計台前で、百貨店の懸垂幕を再利用した巨大エコバッグに、ごみゼロにちなんで530人の学生らがメッセージを書き込んで、3Rをアピールした。



来月1月に、「3R検定」を実施する京大の研究者や市民団体でつくる実行委員会が企画した。巨大エコバッグは縦0.6倍、横

3Rを普及するための懸垂幕を再利用して作った巨大エコバッグにメッセージを書き込んだ学生ら(左京区の駅前)

郵便会社2021万円
12団体へ寄付
郵便事業会社京都支店(下京区)は、年賀はがきなどに付けられた寄付金の府内配分2021万円を、府内の社会福祉法人、特定非営利活動法人、更正保護法人など12団体に贈った。

藤井 光希です
2007年6月4日生
兄ちゃん達と仲良くね(南区)

第53回全国神農会発展賞
(白河神農会主催、読売新聞大阪本社が後援)
8月まで、大阪市立美術館
○会員の神農会賞
前川市 盟親、九十九福社会、